



○「(続)やり切った先に見える景色」

坂が延々と続くコース→



今から約10年前、50歳の時に、特別支援教育の知識も経験も乏しい状況で隠岐養護学校に管理職として赴任しました。ここで何が自分にできるかを考え、出した結論が、自分の苦手なことや困難なことに挑戦すること。その姿勢から何かしら生徒たちに伝えることができればと思ってランニングを始めました。ちなみに 50 歳で最初に出た大会は 10 キロの部で最下位でした。しかし、継続して頑張ること、積み重ねていくことの大切さを、50歳を過ぎても心に留めて行こうと、隠岐の島ウルトラマラソン50kmの部7回連続完走という目標を掲げました。完走メダルは毎回色が違うため、7回完走するとレインボーメダルが完成します。コロナ禍での大会中止もあり、足掛け約10年かけ先日参加した大会でやっと目標を達成しました。10年間近くも挑戦と努力を積み重ねて目標を達成したことは私自身初めてではないかと思います。

ゴールした時は、感動以上に感謝の気持ちに溢れました。50キロの道程で、スポーツは、競技をする人、支える人、観る人・応援する人で成り立っていると深く感じたからだと思います。隠岐の島ウルトラマラソンは、全国屈指の難コースで、約2／3が高低差の激しい山道・坂道です。当日は、高温多湿の環境で、途中からフラフラになりながら、たびたび足も止まり、制限時間ギリギリでのゴールとなりました。それでもゴールできたのは、教員になって初めて勤務した隠岐水産高校の時の教え子や隠岐での2回の勤務を通して知り合った方々が、そして隠岐のみなさんが、何時間も暑い中朝から暗くなるまで、絶え間ない応援を送り続けてくれたからです。また、公設エイド、私設エイドでランナーを支えるボランティアの人たちがいたからです。沿道はエアサロンパスや飲料水などを差し出す人たちで溢れ、鼓舞する曲を演奏し続けてくれたバンドや太鼓を鳴らし続けてくれた人もいました。ランナー同士も励まし合ったり気遣い合ったりしながら走っていました。

感謝の気持ちを込めて、いつもは意識してゴール後に帽子をとって、走ってきた道程やスタッフに向けて一礼をするようにしていますが、今回は無意識に一礼をしていました。

何事も本人の努力は必要ですが、それを支える人、応援する人がいてこそです。そして、「いざや磨かんともがらよ」、切磋琢磨する人がいてこそです。

情報が簡単に入手でき、結果もすぐに求められる今の時代にあって、高い目標に向かって挑戦し努力を積み重ねていくことは、相当な覚悟と勇気、そして根気と志が必要です。

やり切った先に見える景色は、やり切った者にしか見えない。そう思った大会でした。